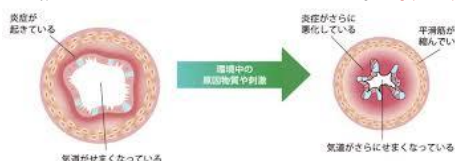




気管支喘息ってどんな病気？

10月下旬から朝晩の寒暖差が大きくなり、喘息のお子さんが目立つようになりました。気管支喘息はウイルス感染などを契機に気道に炎症が起こることで、**気道が刺激に過敏に反応するようになり、気道が狭くなって呼吸困難となる**病気です。胸や口に耳を近づけるとゼーゼー、ヒューヒューという音が聞こえるようになります。症状が軽いときは、ゼーゼー音がする、運動した時に咳き込む程度ですが、進行すると、夜間息ぐるしくて眠れない、動けない、食事がとれないといった状態になります。**喘息発作の程度は、食事や睡眠など日常生活にどの程度支障をきたしているかが参考になります。急性期の喘息発作の治療は、火事と同じように初期消火が大切です。**ボヤの段階で消し去ることが重要で、発作の程度が強くなると、点滴や入院治療が必要になります。**喘息発作かなと思ったら、早めの病院受診を心がけてください。**



インフルエンザワクチン

10月下旬から県内でも一部の地域でインフルエンザの患者数が急増しています。

2025-26期のインフルエンザワクチンはA型株2種類、B型株1種類が含まれる3価のワクチンです。2024-25期のワクチンの18才未満を対象にした有効性の米国での研究によると、**32%~60%で病院受診を抑制し、63%~78%で入院のリスクを減少させた**と報告されています。

経鼻弱毒生ワクチン(フルミスト)が2024年10月に発売され、昨シーズンから一部の医療機関で接種が行われています。A2種類、B1種類の生ワクチンが含まれています。**対象年齢は2歳から18歳で、左右の鼻腔内に1回ずつ噴霧して完了**です。ただし、妊娠さん、免疫力が低下している人、重症の喘息の人は接種はできません。



10月の感染症情報

ウイルス性感冒、気管支喘息が増加しました。5類感染症では伝染性紅斑が流行の主体でした。RSV感染症の散発的な発生があり、学童児でマイコプラズマ感染症が流行しました。新型コロナ、インフルエンザは1~3人/週の発生に留まりました。



10月の利用状況

10月の利用延べ人数は115人、1日平均利用人数は5.2人でした。年齢別では、1歳児が37人で最も多く、次いで4歳児24人、3歳児21人の順でした。疾患別では急性上気道炎が73人で最も多く、次いで気管支炎の14人、感染性胃腸炎9人、RSV感染症8人の順でした。

10月中旬から朝晩が肌寒くなり、一過性の発熱、鼻水、咳がでる普通感冒が増えました。入室児童の多くは普通感冒で、一部にRSV感染症やマイコプラズマ感染症が含まれていました。